

12 : 飼育者からみた「ウシの性格」に関する研究

人間科学研究部門 人文社会・体育学分野 渡邊 芳之

メールアドレス ynabe@obihiro.ac.jp

研究の概要

【目的】

ウシの飼育に従事する人々が「ウシの性格」の個体差についてどのように感じているか、個別のウシの性格をどのように認知し、区別しているかを明らかにすることを通じて、飼育者によって認知されるウシの行動特徴や個体差のありさまについて分析した（家畜生産科学ユニット・高栄政輝の卒業研究）。

【方法】

1) 聞き取り調査

フィールド科学センター職員、「うし部」部員などに聞き取り調査を行い、日頃の飼育においてウシの「性格」の個体差を感じているか、感じているとすれば具体的にどのような場面で、どのような点で感じるか、飼育や利用においてウシの性格に留意しているか、などを聞き取った。聞き取り内容はテープに録音して文字起こしし、内容を分析した。

2) 質問紙による調査

Gosling & Olson(1999)など心理学における動物の性格研究と同様に、人間の性格評定と同じ評定項目（形容詞）15語を用いた質問紙により、10名の「うし部」部員に日頃搾乳している10頭の牛の性格評定を求めた。15語×10名×10頭のデータ行列を分散分析、因子分析などを用いて分析した。

【結果】

1) 聞き取り調査の結果

聞き取り調査の分析から、飼育者の多くはウシの性格に一貫した個体差があると感じており、とくに人間への反応・行動から性格が推測できると感じるが多かったが、性格を考慮した飼育や利用などを行っているかどうかには大きな個人差があった。

2) 質問紙調査の結果

質問紙調査の分析から、飼育者は人の性格評定に用いられる形容詞のほとんどで、それを用いてウシの性格評定を行うことができただけでなく、特定のウシに対する評定が飼育者間でかなり一致する傾向が見られた。また評定内容とウシのその他の特徴や行動特性に関連性が見られた。このことから、飼育者が人間の性格と同じような観点からウシの性格を評定でき、その評定内容に一定の信頼性・妥当性があることが示唆された。しかし、人間の性格評定と比較するとウシについては評定しにくい評定項目、評定が難しい性格因子が存在することもわかった。今後はウシ飼育者の視点に寄り添ったデータ収集方法を工夫し、飼育者によるウシの性格の認知についてより詳しく明らかにしたい。